

平成 20 年  
5 月 29 日

# 病害虫発生予報 6 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ． 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 水稲：いもち病(葉いもち), イネドロオイムシ | 1 |
| ナシ：黒星病, カメムシ類, ナシヒメシンクイ | 2 |
| ナシ, カキ：コナカイガラムシ類        | 3 |
| 夏ネギ：べと病, ネギアザミウマ        | 3 |
| 小麦：赤かび病                 | 4 |

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 【その他の病害虫】                             | 4 |
| 水稲, ナシ, ブドウ, カキ, 夏ネギ, 半促成ピーマン, 促成キュウリ |   |

### ． 病害虫ミニ情報

|              |   |
|--------------|---|
| 果樹のカメムシ類について | 6 |
|--------------|---|

### ． 今月の気象予報

### ． テレホンサービス

029(226)5321

農薬登録速報については, 農林水産省ホームページ「農薬コーナー」  
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは, 病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は, ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| やや早い | やや多い | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

5月下旬現在、置苗でのいもち病の発生は例年通り認められなかった。

気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、曇りや雨の日が多いと予想され、発生を助長する条件である。

発生好適条件：気温 20～25 で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[ 防除上注意すべき事項 ]

防除所の調査地点では、約 50%のほ場で置苗が認められる。置苗はいもち病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等処分する。

常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。

例年6月下旬から発生するので、粒剤で本田防除する場合には早めに防除する。

粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

中干し等の栽培管理を徹底し、イネの健全育成に努める。

水田において農薬を施用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間は1週間程度とすること。

2. イネドロオイムシ

[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| 平年並  | やや多い | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

5月下旬現在、越冬成虫の発生量は平年よりやや多く、イネへの産卵数は平年並であった。

気象予報によると、向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され、発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

育苗箱施用剤を使用していない水田では、曇雨天が続く場合は注意が必要である。また、霧が発生する地域等では発生が多い傾向がある。

長期に曇雨天が続く場合は、育苗箱施用剤を使用している場合でも、6月中旬以降に発生が多くなる可能性がある。

発生推移として、幼虫は6月上旬頃から発生し、被害は6月下旬に最も多くなる。7月上旬には終息するが、幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行う。

ナ シ

1. 黒星病  
[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| -    | 多い    | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

5月下旬現在，発生地点率は県北，県南地域でやや高く，県西地域では高い。また，発病葉率及び発病果率は県北，県南地域でやや高く，県西地域では高い。  
気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され，発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

発病した果そう基部，葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。  
発病が確認された圃場では，発病部位を除去した後に薬剤防除を行う。散布は雨の合間をみて行なう等，防除間隔が空かないように注意する。  
薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安にし，丁寧に散布する。また薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

2. カメムシ類  
[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発 生 量          | 発生地域 |
|------|----------------|------|
| やや早い | やや多い<br>(越冬世代) | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

本年2月の山林での越冬量調査の結果，越冬成虫は平年よりやや多い。  
5月下旬現在，サクラのたたき落とし調査では，チャバネアオカメムシの発生が平年よりやや多い。  
5月下旬現在，果樹園に設置した予察灯（かすみがうら市）にチャバネアオカメムシの誘殺が確認されている。

[ 防除上注意すべき事項 ]

夜間の気温が高いと活動が活発になる。このような場合は果樹園への飛来にも十分注意する。  
防除は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。  
多目的防災網（6mm及び9mmクロス目以下）を張ると防除対策として有効である。

3. ナシヒメシンクイ  
[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並  | 平年並   | 県下全域 |

(ナシ ナシヒメシンクイ続き)

[ 予報の根拠 ]

5月下旬現在，被害は認めず平年並の発生量である。  
県内各地におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

今後，次世代成虫が発生するため，今後の情報等を参考に適期防除に努める。  
薬剤散布量は，10a当たり300リットルを目安にし，丁寧に散布する。

ナシ，カキ

1. コナカイガラムシ類

[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| -    | やや多い | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

5月下旬現在，ナシでコナカイガラムシ類の発生が多く確認されている。

[ 防除上注意すべき事項 ]

樹皮の隙間，枝の切り口や，新梢の付け根等をよく観察し，見つけたら柔らかいブラシ等でこすり落とす。

世代がすすむと防除が困難になるので，発生している部分には丁寧に薬剤散布を行って，6月中に防除を徹底する。

夏ネギ

1. ベと病

[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| -    | やや多い | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

5月下旬現在，発病度，発生地点率ともに平年並の発生である。

気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され，発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。特に前年発生が多く見られた圃場は注意し，発病が見られたらただちに防除を行う。

薬剤散布は丁寧にを行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。

肥料切れや多肥は発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

## 2. ネギアザミウマ

### [ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量     | 発生地域 |
|------|---------|------|
| -    | やや多い~多い | 県下全域 |

### [ 予報の根拠 ]

5月下旬現在，平年よりやや多い~多い発生である。

### [ 防除上注意すべき事項 ]

今後は気温の上昇に伴い増殖が速くなるので，発生が認められる圃場では，できるだけ早期に防除を行う。

発生源となる圃場周辺の除草を徹底する。

### 小麦の赤かび病について

収穫が遅れると，赤かび粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため，適期収穫に努める。

収穫時には，赤かび病が発生している圃場は刈り分け，赤かび粒が混入しないように十分注意する。

収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。

小麦を調製する際に，グレーダー網目を基準より大きく（2.4mm 以上）すると，赤かび粒の混入を軽減できる。

~ 赤かび病粒の混入を防止し，高品質麦の生産に努めましょう!! ~

### 【その他の病害虫】

| 作物 | 病害虫名     | 発生予想                     | 発生概況及び注意すべき事項                                   |
|----|----------|--------------------------|---|
| 水稻 | 黄化萎縮病    | -                        | 移植後 10~50 日の間に冠水すると発生の恐れがある。常発地で冠水した場合には，防除を行う。 |
|    | イネミズゾウムシ | 発生時期: やや遅い<br>発生量: やや少ない | 湛水状態は成・幼虫の活動に好適なため，適切な水管理をしてイネの健全育成に努める。        |
| ナシ | アブラムシ類   | 発生量: 平年並                 | 5月下旬現在，平年並の発生である。                               |
|    | ハダニ類     | 発生量: 平年並                 | 5月下旬現在，発生は認められない。                               |

| 作物      | 病害虫名      | 発生予想     | 発生概況及び注意すべき事項   |
|---------|-----------|----------|---|
| ブドウ     | 灰色かび病     | 発生量：やや多い | 気象予報では平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されている。開花期に降雨が続くと発生しやすいので注意する。             |
|         | べと病       | 発生量：やや多い | 降雨が続くと発生しやすいので注意する。   |
| カキ      | 炭そ病       | 発生量：平年並  | 5月下旬現在，発生は認められない。   |
|         | カキクダアザミウマ | 発生量：平年並  | 5月下旬現在，発生は認められない。   |
| 夏ネギ     | 黒斑病       | 平年並      | 5月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され，発生を助長する条件である。 |
| 半促成ピーマン | うどんこ病     | やや多い     | 5月下旬現在，平年よりやや多い発生である。   |
| 促成キュウリ  | 褐斑病       | -        | 5月下旬現在，平年より多い発生である。罹病部は次作の伝染源となるので，栽培終了時にはハウス外への持ち出し，処理を徹底する。     |

## 果樹のカメムシ類について

チャバネアオカメムシやクサギカメムシなどのカメムシ類は、ナシやカキなどの果実を吸汁加害するため、防除上重要な害虫です。これらのカメムシ類の県内での発生状況及び予想される今後の発生推移などについてお知らせします。

### 発生生態

果樹のカメムシ類は、成虫が山林の落葉の下や建物の隙間などで越冬します。越冬した成虫は、気温の上昇に伴い活動を開始し、サクラやクワ等の果実を吸汁し、スギやヒノキの球果が成熟すると、繁殖地であるスギ・ヒノキ林へ移動します。主要な餌はスギやヒノキの球果です。果樹園へは、これらの移動の過程で一部が飛来します。繁殖地では、主にスギやヒノキの葉や球果に産卵し、7月頃から新世代成虫が出現します。成虫は年1~2回発生し、11月頃になると越冬場所へ移動し、休眠します。

### 本年の発生状況と今後の予想

果樹カメムシ類の中でも、本県で最も発生が多いチャバネアオカメムシの越冬量は、平年よりやや多く、5月下旬にはサクラにおいても平年よりやや多い発生が確認されています。これらのことから、越冬した成虫（越冬世代成虫）のナシ園への飛来数は、平年よりやや多いと予想されます。この状況は、7月下旬頃まで続く予想されます。

また、カメムシ類の主要な餌であるヒノキ球果の量が多い傾向で、7月頃から発生する次世代成虫の発生量は平年より多くなると予想され、8月以降は、特に注意が必要です。

今後も果樹カメムシ類の予察を継続しますので、防除所の情報を確認してください。

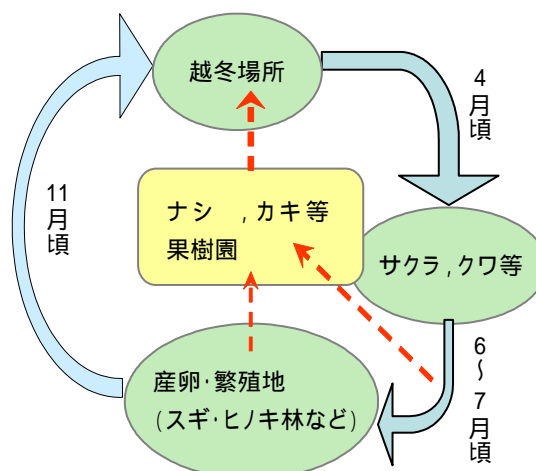


図 果樹カメムシ類の発生動向

### 防除対策

#### 1) 物理的防除

多目的防災網（6mm目または9mmクロス目）の設置が有効です。これにより吸蛾類や気象災害（雹）による被害も同時に軽減することができます。

#### 2) 薬剤防除

通常の発生であれば、病害虫参考防除例（防除暦）の防除体系で被害を回避できます。しかし、多発生時には、次々と園内に飛来するので、残効の長い薬剤を用いるなど、工夫が必要です。薬剤の残効期間の目安は、合成ピレスロイド系、有機ケイ素系、ネオニコチノイド系薬剤で5~10日程度、有機リン系薬剤で2~3日程度とされています。また、ネオニコチノイド系薬剤は忌避効果が期待できます。薬剤は、風のない早朝に散布してください。

各薬剤の使用できる回数や収穫前日数をラベルで確認し、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意してください。

## ・今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 5月24日から6月23日)

気象庁(5月23日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[ 確率 ]

| 要素   | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|--------|---------|-----|--------|
| 気温   | 関東甲信全域 | 20      | 40  | 40     |
| 降水量  | 関東甲信全域 | 30      | 30  | 40     |
| 日照時間 | 関東甲信全域 | 40      | 30  | 30     |

[ 概要 ]

天気は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

< 1週目の予報 > 5月24日(土曜日)から5月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

< 2週目の予報 > 5月31日(土曜日)から6月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率40%

< 3週目から4週目の予報 > 6月7日(土曜日)から6月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

## ・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321

6月上旬 果樹および露地野菜の病害虫防除対策について

6月下旬 水稲および果樹の病害虫防除対策について

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。